

直進する時間・循環する時間

“前/后”“上/下”の時間指示用法における認知的対立

下地 早智子 (神戸市外国語大学)

松江 崇 (京都大学)

1

要旨

□ 現代標準中国語において、空間の対立軸を指す形態素を構成要素とする時間詞には、2つの系列が見られる。一つは、水平軸(Horizontal axis)の“前/后”を用いる系列(H系)、いま一つは、垂直軸(Vertical axis)の“上/下”を用いる系列(V系)である。

□ 本発表では、V系の方位詞や移動動詞用法と歴史的観点からの検討に基づき、以下を主張する。H系が**主体参照(Ego-perspective)**に基づく空間移動のメタファーであるのに対し、V系は**環境参照(Field based)**に基づく Solar metaphor か metonymy、あるいは「河流のメタファー」であり、H系が時間を認知者自身の移動事象体験として把握しているのに対し、V系は認知者が環境に生じる変化を外から観察することによって時間を認識しているので、事態把握に大きな認知的対立が見られる。

2

本日の流れ

1. 理論的背景
 2. 先行研究
 3. H系とV系の時間用法
 - 3.1. 方位詞と同形の場合
 - 3.2. 時間詞の構成要素になる場合
 4. 傍証
 - 4.1. V系の空間指示用法
 - 4.1.1. 方位詞用法
 - 4.1.2. 動詞用法
 - 4.2. 中国語母語話者はどのように時間を認識してきたか
 - 4.3. 中国語史からみたV系の歴史
 5. まとめ
- 引用文献

4

・この発表は、以下の拙論と研究発表に基づく

- ① 2011年7月、<时空隐喻研究的近况及其日语对比—以FRONT/BACK概念词汇的用法为中心>，《认知语法与对外汉语教学论集》,北京语言大学出版社：194-217.
- ② 2015年6月,「中国語の空間語彙“前/后(後)”と“上/下”の時間用法における対立」,対照研究セミナー,神戸市外国語大学.
- ③ 2016年7月, Conceptual Opposition between “FRONT/BACK” and “UP/DOWN” in Chinese SPACE-TIME Metaphors, 第24回国際中国語語言学学会,北京语言大学.

3

3

4

1. 理論的背景 概念メタファー理論

- メタファーの本質は、ある事柄を他の事柄を通して理解し、経験することである。
(L & J.1980, p.5; 渡辺他訳, p.6)
- メタファーというのは、ただ単に言葉の、つまり言葉遣いの問題ではないということである。それどころか、筆者らは人間の思考過程 (thought processed) の大部分がメタファーによって成り立っていると言いたのである。人間の概念体系がメタファーによって構造を与えられ、規定されているというのはこの意味である。
(L & J.1980, p.6; 同上, p.7)
- メタファーは、「**起点領域**」 (source domain) から「**目標領域**」 (target domain) への「写像」 (mapping) である。
(Lakoff. 1987:276)

5

- 意味論の最近の認知モデルの仮説によれば、言語の算出と処理には、描写対象の状況を「シミュレーション」することが関与するとされる。すなわち、ある状況を想像したり、記述する際には、そうした状況を知覚・経験するのと同じ脳の部位が活性化するというわけである。このように意味を「**身体的基礎をもつ**」 (embodied) もの——意味は身体経験と同じ素材でできている——とする見方は、言語と思考を概念的なものとみる考え方に意義を唱えることとなる。

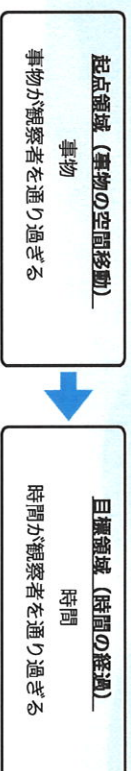
(Dancygier and Sweetser. 2014, 野村 等訳, p.3)

6

時空間メタファー

TIME IS MOTION (Fillmore.1971; Clark.1973; Lakoff.1993; Lakoff & Johnson.1999)

I. Moving Time (MT)



- (1) Ea. A typhoon is approaching.
 Ja. 台風が近づいている。
 Ca. 台風即將到来。
- Eb. The deadline is approaching.
 Jb. 締め切りが近づいている。
 Cb. 截止日期即将到来。

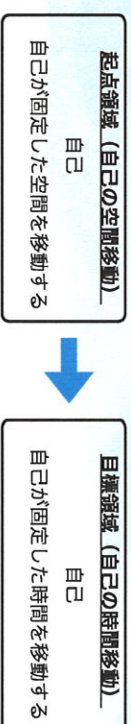
7

7

時空間メタファー

TIME IS MOTION (Fillmore.1971; Clark.1973; Lakoff.1993; Lakoff & Johnson.1999)

II. Moving Ego (ME)(=Moving Observer/Experiencer)



- (2) Ea. We are approaching the goal.
 Ja. (私達は)ゴールに近づいている。
 Ca. 我们走向办公室的出口。(BCC)
 (私達は事務室の出口に向かって)
- Eb. We are approaching the deadline.
 Jb. (ぼくたちは)新しい時代に近づいている。(KOTONOHA)
 Cb. 我们走向光辉的未来。(BCC)
 (私達は輝かしい未来に向かって)

8

8

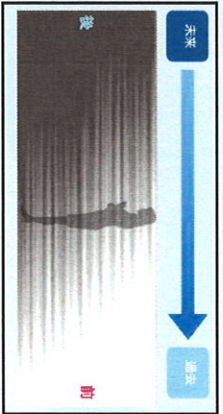


図1a Moving Time

・ MT: 前=過去、後=未来

(3) E. I have done that **before**. (Yu,1998:110)

J. 前にやったことがある。

C. 前事不忘、后事之師

(前のことを忘れず、後の事の師とする)

・ ME: 前=未来、後=過去

(4) E. He left his difficult childhood **behind**.

(Núñez and Sweetser 2006: 411)

J. 我々の前には洋々たる未来が広がっている。

C. 前途洋洋



図1b Moving Ego/Observer/Experiencer

9



図2a Field-based frames of reference

・ Field-based frames of reference/
sequence is relative position
(環境参照型)(本多2012)

(5) E. Summer **follows** spring. (Moore,2011:9)

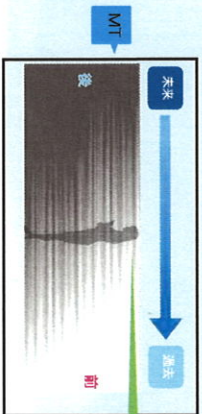
J. 冬の後には春が来る。

C. 或許、如今正是黎明前最黑暗的一段。

(恐らく、今はまさに夜明け前の最も暗い一瞬だ)

10

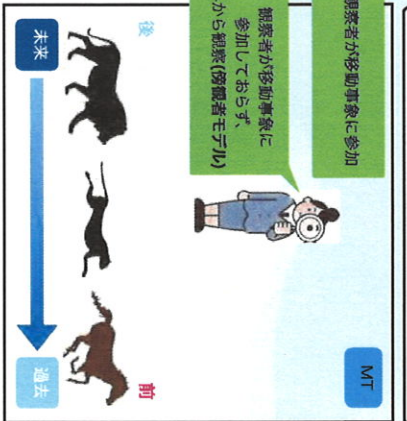
主体参照型(Ego-Reference Point)



観測者が移動事象に参加

観測者が移動事象に参加しておらず、外から観測(傍観者モデル)

環境参照型(Field-based/Sequence is relative motion)



11

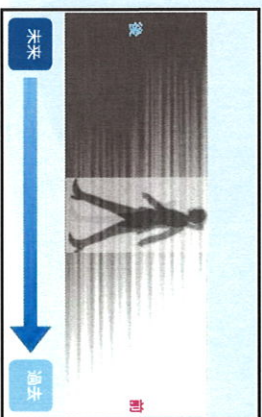


図1a Moving Time

◆本多(2011)(2012)の解釈では、

✓ MTとMEは「図地反転」の関係

✓ 環境参照型も主体が移動事象に参加(図2b)

✓ 主体参照型MTと環境参照型の違いは、TRと主体の前後関係かTRとLM間の前後関係か、という点

(6) a. Kyoto is approaching.

b. Christmas is approaching.



図2b Field-based frames of reference
「涼風亭・観測者モデル」

(7) a. Maple Street comes **before** Elm Street.

b. Monday comes **before** Tuesday. (本多2012:49)

12

・ 相対的空間指示辞における視点投射 (Levinson, 2003:86-89)

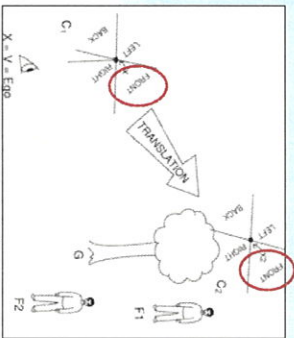


図3. 平行(translation)
Levinson, 2003:87

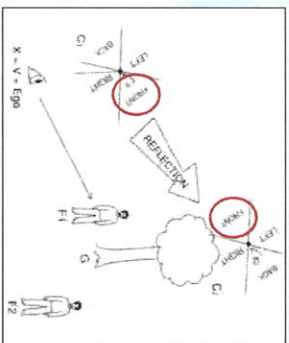


図4. 反射(reflection)
Levinson, 2003:86

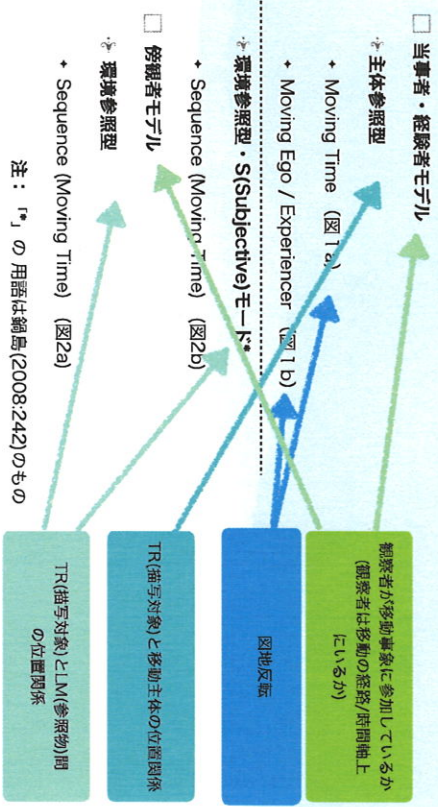
13

本日の流れ

1. 理論的背景
 2. 先行研究
 3. H系とV系の時間用法
 - 3.1. 方位詞と同形の場合
 - 3.2. 時間詞の構成要素になる場合
 4. 傍証
 - 4.1. V系の空間移動指示
 - 4.2. 中国語母語話者はどのように時間を認識してきたか
 - 4.3. 中国語史からみたV系の歴史
 5. まとめ
- 引用文献

15

15



14

14

- V系はどのタイムに属するか?
 - V系の起点領域(経験的基盤)は?
- 先行研究
- 1) 起点領域(経験的基盤)を想定していない、現象の説明のための理論的モデル (厳密には概念メタファー理論ではない?)
 - 2) 起点領域(経験的基盤)を想定したもの
 - 2)i. 起点領域が空間移動事象ではない
 - 2)ii. 起点領域が空間移動事象である

16

16

1) 起点領域(経験的基礎)を想定しない、現象の説明のための理論的モデル

- ・「長編のメタファー」(佐藤博・長谷田 2008.)
 - 時間は一本の上長移動をする長編である。先に発生した出来事が「上」で、後に起こった出来事が「下」、我々の身辺を通り過ぎる時間が「現在」である。
 - 時間は一本の直線的で動かない長編であり、人間は横を走って上から下に移動している。
 - 時間は境界を持つ三次元空間である。



図5. 時間軸一個有形的三維空間

経験的基礎が想定できない

「漏刻」による時間認識の可能性

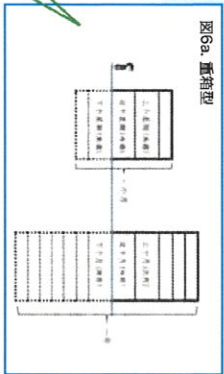


図9a. 重箱型

- ・「重箱型」(伏村 2022:7)
 - なぜ「過去」が「上」、'未来'が「下」? (p.7)
 - H系は、Luhit, Aemson(1994:104); Amana (N&S:2006)と同様に要素が「過去」を指しているモデル

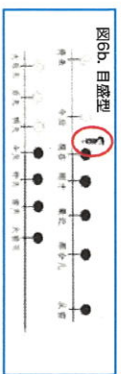


図9b. 目盛型

2) 起点領域(経験的基礎)が空間移動事象ではない

- ・「行列のフロッピー(=queue analogy)」
 - =STATUS IS UP
 - (Yu, H.T. Jinnai, 1989; Fuhmani et al. 2011; Dancygler & Sweetser 2014; Yu 2012:1342)

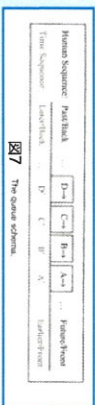
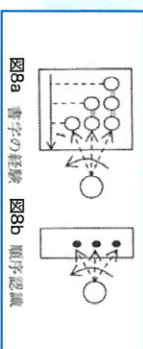


図7 The queue system

- Human/Ego-RP:
 - 上輩 / 平輩 / 下輩
 - 'ancestors / people of the same generation / future generation.'
 - 上人 / 凡人 / 下人
 - 'parents or grandparents / children or grandchildren.'
 - 'older / "parents", "elder member of a family"
 - '"older" "ancestors"



- ・これらは時間制ではない
- ・意味的には「時間」というよりも社会関係における上下関係
- ・書字体系が出来てから近現代まで
- ・漢字による「時間」への
- ・漢字は想定できるかも
- ・V系の空間移動動詞用法との写像関係が不明

2)ii. 起点領域(経験的基礎)が空間移動事象

- ・「河流のメタファー」(藤为光2004; 藍純2005; 左塚繪2007; Radden,G.2011; Yu.2012)

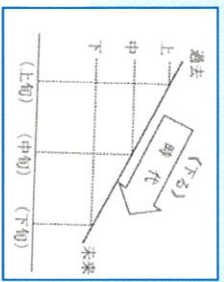


図9. 河流のメタファー

- (8) 関渡可上溯迄下及未来。(Yu.2012:1350)
- ・ただし、中国語の先行研究は縦軸者モデル、瀬戸のモデルは当事者・経験者モデル

・「人体のプロジェ(水平軸の垂直化)」(Yu.1998:111)

- '上/下は、FRONT/BACK軸を垂直にしたもの。
- 中国語の上/下'の認知モデルは'前/后'空間の拡張、四足歩行の動物は頭の前方向が前方であるとされるが、人間は頭が上であり、前方が水平方向から垂直方向へ拡張したものが中国語の上/下'軸。

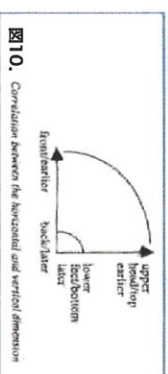
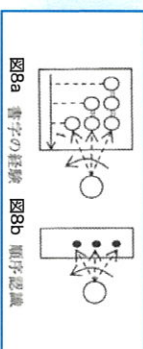


図10. Correlation between the horizontal and vertical dimension

- ・岩佐(1999:24)の記述では、フロッピー同軸線や散乱線では、空間を人間の外と同様に考え、最上部を指す場合にはO:接続線を用いる。空間に傾いても空間の場合と同様に、過去を頂部と拡張す。

「書字・蘭字体系のメソダリスケーニング」

- (Yu, H.T. Jinnai, 1989; Fuhmani et al. 2011; Dancygler & Sweetser 2014; 藤原 2018:125)



- ・これらは時間制ではない
- ・意味的には「時間」というよりも社会関係における上下関係
- ・書字体系が出来てから近現代まで
- ・漢字による「時間」への
- ・漢字は想定できるかも
- ・V系の空間移動動詞用法との写像関係が不明

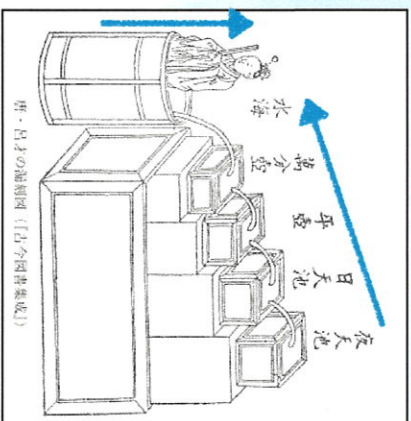


図11. 中国の漏刻多段式漏刻

2)ii. 起点領域 (経線的基盤) が空間移動事象

- ・「太陽のメタファー」(Solar metaphor) (Xu, Dan.2008; 徐丹2008; 徐丹2016)

表 1. Vertical time expressions in Xu, Dan. 2008:190

day	week	month	year
上 shàng up	上週 shàngzhōu forenoon/morning last week	上個月 shàng gè yuè ye	上半年 shàng bàn nián shàng nián first half of the year
下 xià down	下週 xiàzhōu next week	下個月 xià gè yuè next month	下半年 xià bàn nián xià nián second half of the year

- It is evident that in the above examples, Mandarin uses vertical notions to describe time. The terms for 'morning' and 'afternoon' refer to the movement of the sun, and time moves in a circle. When the sun is rising, 'above' is employed expressing 'fore-noon/morning'; when the sun is setting, 'below' is employed expressing 'after-noon'. This means that in some time expressions, Chinese takes the sun as a reference. It also explains why Chinese has vertical terms to express time. (Xu, Dan. 2008.7:190)

2)ii. 起点領域 (経線的基盤) が空間移動事象

- ・「太陽のメタファー」(Solar metaphor) (Xu, Dan.2008; 徐丹2008; 徐丹2016)

- 汉语不但有纵向的时间表述, 如“十点前、公元前、三个小时后、两分钟后”, 也有纵向的时间表述, 如“上午、下午、上个月、下个月、上个星期、下个星期、上半年、下半年”等等。与西方语言相比, 这也许反映出汉语的某种特性, 即汉人观察世界、感受世界与许多语言不同, 这种用“上、下”表述时间流逝的方法也许与太阳的升起、落下有关。这意味着汉语用两种方式描述时间的流逝, 一种是以人为参照物 (如人体的前、后), 一种是以天体为参照物 (如太阳的升起、落下)。(徐丹 2008.11:507)

中国語は傾向性の時間表現 (10分钟前、3時間前、2分前) などだけでなく、傾向性の時間表現 (午前、午後、先月、来月、先週、来週、前半日、後半日) などがある。西洋の言語と比べると、これは明らかに中国語のある種の特徴。すなわち漢人が世界を認識し、世界を知覚する方法が多くの言語と異なることを反映している。「上、下」で時間の流れを表現する方法は、恐らく太陽の上昇・下降と関係している。これは、中国語が二つの方法で時間の流れを描写していることを意味する。一つはヒトを参照物 (人体の前と後) とし、一つは天体を参照物 (太陽の上昇と下降) とする。

2)ii. 起点領域 (経線的基盤) が空間移動事象

- ・「太陽のメタファー」(Solar metaphor) (Xu, Dan.2008; 徐丹2008; 徐丹2016)

- 汉语也是世界语言里的一种, 与其他语言具有许多共性。比较特别的是, “上/下”可以表达先后, 表达时间, 并形成一种系统。也许在古人的世界观里, “上/下”不是现代意义上的“上/下”, 而是一种以太阳出没为轨迹的循环。

(徐丹.2016: 8)

中国語も世界の言語の一種であり、他の言語と多くの共通性を見える。比較的特別なのは、「上」で後先を表すことができ、時間を表すことができ、しかも一種の体系を成している。おそらく、古代の人の世界観においては、「上」は現代的な意味の「上」ではなく、太陽の出没を軌道とする循環だったのである。

・科学史に合致:

太陽が沈み、そしてまた昇れば、「日」という時間がすぎたと分かる。満月が欠け、再び満ちれば、「1か月」という時間がすぎたと分かる。古代の人々は、天体の運行によって時の流れを把握した。空をめぐる天体こそ、彼らの時間の基準、すなわち「時計」だったのである。満月は1ヶ月後にはふたたびやってくる。天体の運行は「何度もくりかえす」ものである。それを時間の基盤にしていた人々にとって、時間もまた「循環するもの」であった。(高嶋 編.2016:18)



図12 地球の自転運動と「1日」 (高嶋 編.2016:19)



図13 月の公転運動と「1か月」 (高嶋 編.2016:19)

・科学史には合致： 徐丹論文には理論的な証拠（起点領域と目標領域の写像関係）や史的検証が示されていない

- 中国の方位と時刻は、いずれも十二支と十干の循環によって表現されていた



図14. 10世紀初めの羅針盤
「浮針と方位と氣」
(Temple R, 1986, 牛山 訳, 1992:258)

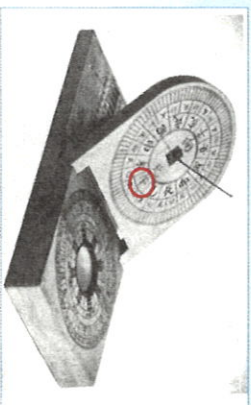


図15. 中国の携帯用日時計
(Needham, J. and Wang, L., 1959,
東畑・坂内 監修, 1991:168)

25

25

本日の流れ

1. 理論的背景
2. 先行研究
3. H系とV系の時間用法
 - 3.1. 方位詞と同形の場合
 - 3.2. 時間詞の構成要素になる場合
4. 傍証
 - 4.1. V系の空間移動指示
 - 4.2. 中国語母語話者はどのように時間を認識してきたか
 - 4.3. 中国語史からみたV系の歴史
5. まとめ
引用文献

26

26

3.1 方位詞と同形の場合

- 中国語の時間表現に空間指示要素が用いられる場合、H系には時空間メタファーの全てがイテが見られる。

- (3) C. 前事不忘 后事之师 [主体参照型、MT]
(前のことを忘れず、後の事の師とする)

- (4) C. 前途洋洋 [主体参照型、ME]

- (5) C. 或许，如今正是黎明前最黑暗的一段。 [傍観者モデル・環境参照型]
(恐らく、今がまさに夜明け前の最も暗い一時代)

- (9) 遭遇黑色星期四，慌不慌？不急，好事在后面！
(暗い木曜日に出くわして、慌ててない？大丈夫、後には良いことが待っているよ！)

[主体参照型MT、もしくは環境参照型・Sモード]
(<https://xuequ.com/2111760429/114877183>, 煥霖日2022.9.10)

27

27

3.1 方位詞と同形の場合

- 中国語の時間表現に空間指示要素が用いられる場合、V系は時間というよりも順序。
- 常に“上面”が「以前」、「下面」が「以後」を指すので、主体参照型にしる、MTであることは確か

(補足例1) “意象”就是形象，具体地说，是哲学的形象比喻。这一点，我们在上面已经作过分析。(BCC)

(「意象」とはイメージのことで、具体的には哲学におけるイメージの比喩である。この点について、我々は上で既に分析を行った。)

(補足例2) 下面由谁来唱啊？(BCC)

(次は誰が歌う？)

28

28

3.2 時間詞の構成要素になる場合

□ただし、H系が時間詞の構成要素として用いられる場合は、常に主体参照型のMT

参照時が直示的 (観察者のいる時間) だから
(例外: *前/半天/后/半天)

表2. H系が時間詞の構成要素になる場合

過去	参照時	未来
以前 before	現在 now	以后 after that
前天 the day before yesterday	今天 today	后天 the day after tomorrow
前年 the year before last	今年 this year	后年 the year after next

29

29

本日の流れ

1. 理論的背景
 2. 先行研究
 3. H系とV系の時間用法
 - 3.1. 方位詞と同形の場合
 - 3.2. 時間詞の構成要素になる場合
 4. 傍証
 - 4.1. V系の空間指示用法
 - 4.1.1. 方位詞用法
 - 4.1.2. 動詞用法
 - 4.2. 中国語母語話者はどのように時間を認識してきたか
 - 4.3. 中国語史からみたV系の歴史
 5. まとめ
- 引用文献

31

31

表3. V系が時間詞の前置の構成要素、または限定修飾成分になる場合

過去	参照時	未来
the first third of a month 上旬 上午 morning 上半年 first half of the year 上一年	the middle ten days of a month 中旬 中午 noon 六月三十号 June 30 这一刻	the last ten days of a month 下旬 下午 afternoon 下半年 second half of the year 下一年
last moment 上(个)月 last month 上(个)星期 this month last week 上(个)季度 last quarter 上(个)世纪 last century	this moment 这(个)月 this month 这(个)星期 this week 这(个)季度 this quarter 这(个)世纪 this century	next moment 下(个)月 next month 下(个)星期 next week 下(个)季度 next quarter 下(个)世纪 next century

deictic

Non-deictic

V系の方がH系よりも豊富
(Averson, H.1994)

(*上句“晚上”のように非対称的なもの(*下五、*後下、*上回”のように順序を指すものは、対象としてない)

30

30

4.1.1.1. Levinson, 1996の指示枠

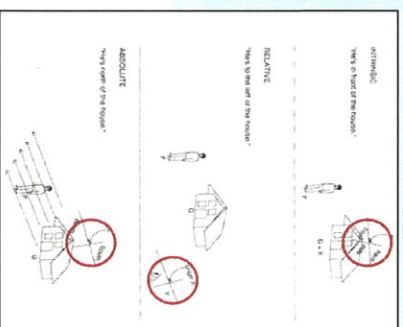


図16. 言語に見られる3つの参照枠
(Levinson, S.2003:40)

32

32

- ・ 固着的指示枠 (Intrinsic Frame of reference):
(10) He's in front of the house.
- ・ 相対的指示枠 (Relative Frame of reference):
(11) He's to the left of the house.
- ・ 絶対的指示枠 (Absolute Frame of reference):
(12) He's north of the house.

傍観者モデル
であることを示唆

“上/下”は
絶対的指示枠
(Levinson, 2003:108)

4.1.1.2. 方位詞の周回性

□ “上/下”が、水平移動事象の構成要素を指す方位詞として用いられる場合、同一の閉じた経路で周期的に繰り返される移動の通過点や媒体を指す

- (13) a. 上一站 这一站 下一站
前の駅 この駅 次の駅
b. 上班车 这班车 下班车
（バスや電車の）前便 この便 次の便



4.1.2.1. 移動の周回性

□ “上/下”が水平移動事象を表す移動動詞として用いられる場合、同一の閉じた経路で周期的に繰り返される空間移動を表す

- (14) a. 上课/学 下课/学
登校 下校
b. 上班 下班
出勤 退勤
(15) a. 上山 下山
登山 下山
b. 上车 下车
乘车 下車

□ 水平移動事象であっても、“上/下”が「同一の閉じた経路で周期的に繰り返される空間移動」を表さない場合、“上”と“下”の用法は非対称的

- (16) a. 上街 *下街
街に行く (街から戻る)
b. *上多 下多
(農村に行く) 農村に行く
c. *上地 下地
(優良仕事に行く) 野良仕事に行く
d. 上卫生间 *下卫生间
トイレに行く (トイレから戻る)
e. *上厨房 下厨房
(台所に行く) 台所に行く
f. 上馆子 下馆子
レストランに行く



□ 抽象的な移動（虚構移動？）の場合も文字通りの垂直移動と同様、周回性が観察されない

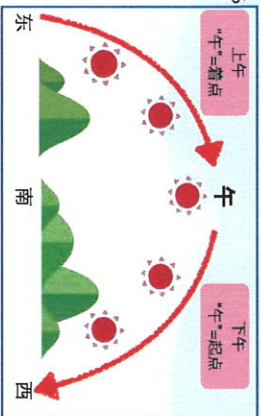
- (17) a. 上崗 下崗
職に就く 職を離れる
b. 上网 下网
インターネットに接続する インターネットの接続を切る
c. 上场 下场
(役者が舞台上/選手が競技場に) 登場する 退場する



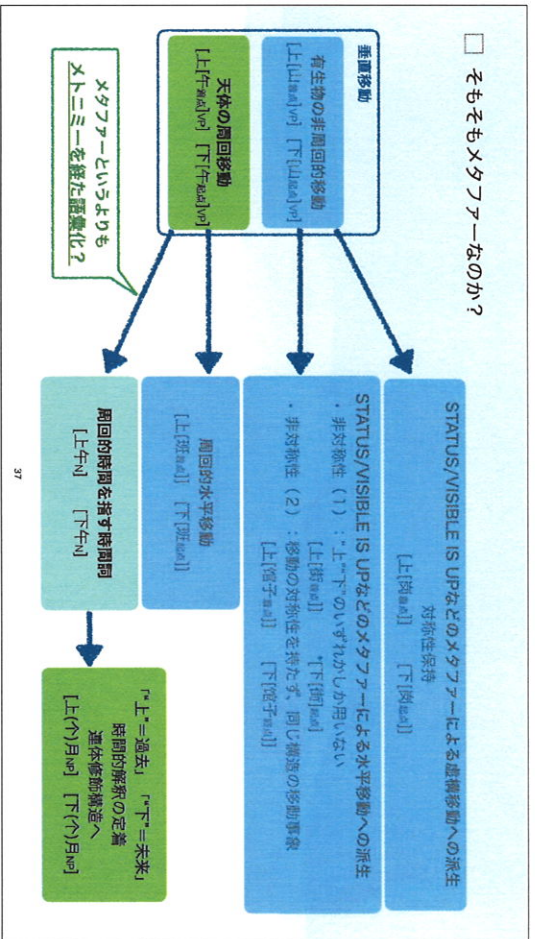
4.1.2.2. 語構造と意味関係

□ “上/下”が周回的な移動動詞として用いられる場合、“上”の目的語は着点のみを指すが、“下”の目的語は起点を意味する場合がある (cf. 杉村1983)

- (18) a. 上课着点 下课起点
up class down class
“登校する” “下校する”
b. 上班着点 下班起点
up work down work
“出勤する” “退勤する”
(19) a. 上街着点 (市街に行く)
b. 下地着点 (野良仕事に行く)
c. 上卫生间着点 (トイレに行く)
d. 下厨房着点 (台所に行く)

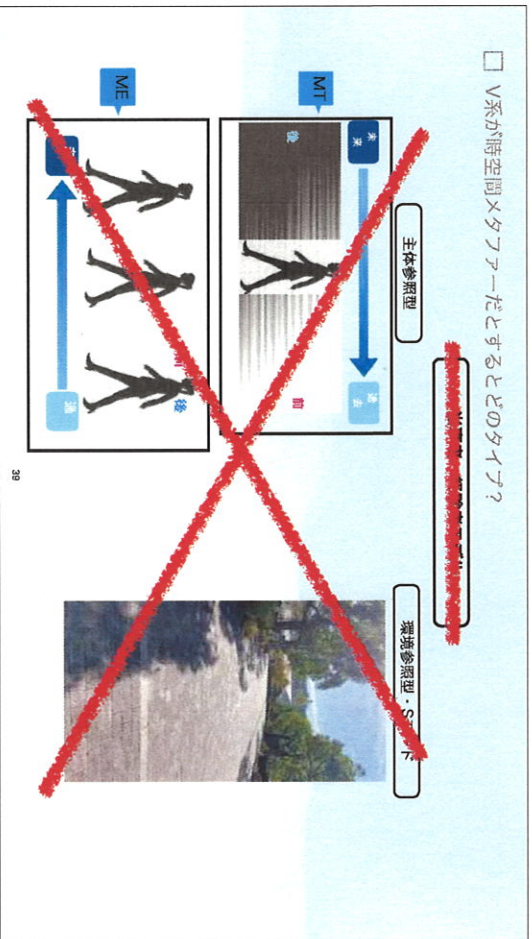


□ そもそもメタファーなのか？



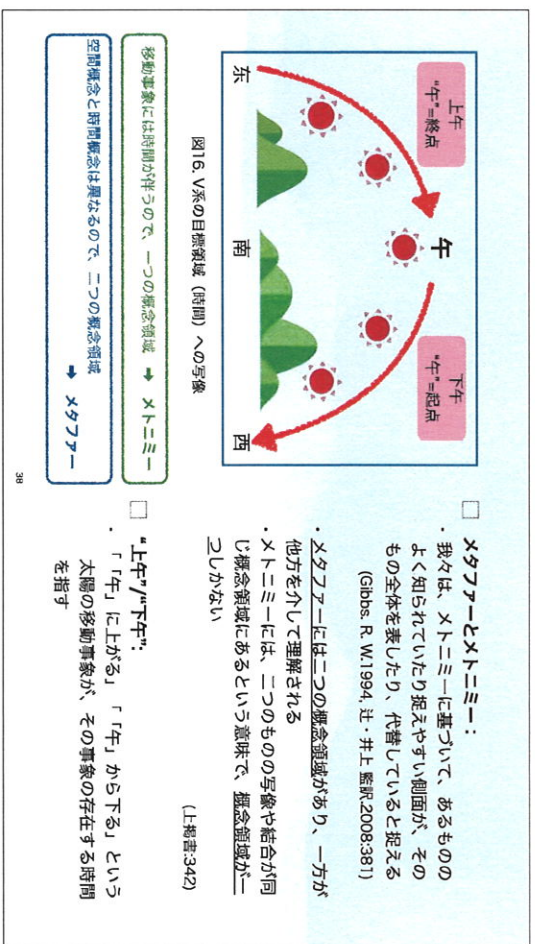
37

□ V系が時空間メタファーだとするとどのタイプ?



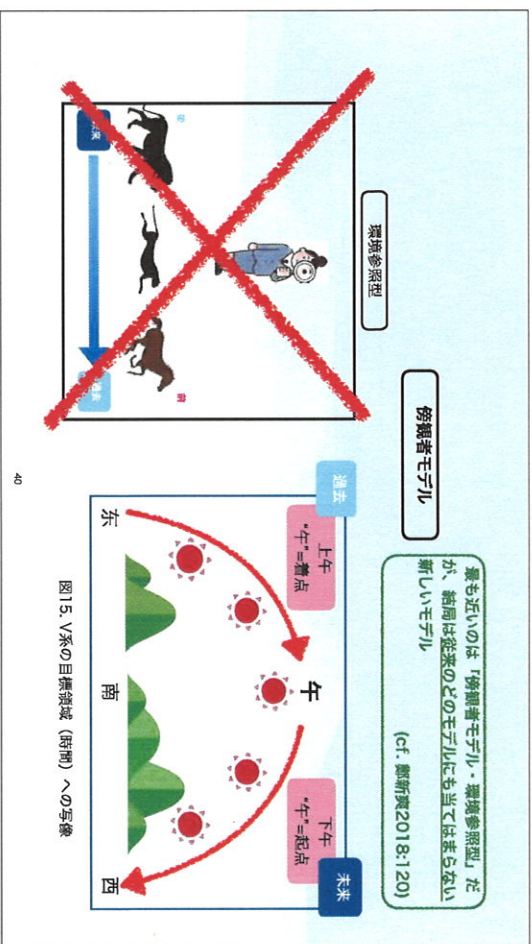
39

□ メタファーとメトニミー:



38

最も近いのは「傍観者モデル・環境参照型」だが、結局は従来のどのモデルにも当てはまらない新しいモデル
(cf. 藤新誠2018:120)



40

表4. 「周回的水平移動」とV系時間間の写像関係

	起点領域	目標領域
指示対象	天体の空間移動	当該事象が観察できる時間
指示枠	絶対的指示枠 観察者の視点が参照されない	傍観者モデル・環境参照型の新しいタイム 観察者が事象に参加していない
参照点	天体(移動主体)が 通過する 方位・場所	天体が当該の領域を 通過する時間
周回性	Yes	Yes
語構造 意味関係	上 [空間的起点] 下 [空間的起点]	上 [時間的起点] 下 [時間的起点]

41

41

- 「周回的水平移動」が「周回的時間を表す時間詞」と写像関係を持つ起点領域であるように見える
- Non-deicticで、すでに時間語彙化したタイムは、場所目的語を取るVO構造
- これらの「上/下」を方位詞(名詞)と分析すると、語彙化が起こる前の句構造が不明
- Deicticで、「*今*」の介在が可能なタイムは、「上/下」が時間用法を獲得した後に生じたのでは?
- 表4のように整然とした写像関係は、solar metaphor以外のメタファーでは想定できない

表5. H系時間間とV系時間間の対立

	H系		V系	
	直示的	非直示的	直示的	非直示的
認知機構	当事者・経験者モデル Moving time メタファー	傍観者モデル・環境参照型の新しいタイム Solar metaphor, または(Im)tonymy		
語構造	名詞修飾構造	「動詞+目的語」構造→名詞修飾構造		
例	過去	未来	過去	未来
	以前 前天 前年	以后 后天 后年	上午 上旬	下午 下旬 上(下)月 上(下)星期 上(下)季度 上(下)世紀

43

43

表3. V系が時間間の前置の構成要素、または限定修飾成分になる場合

過去	参照時	未来
the first third of a month 上旬 morning 上半年 first half of the year 上-刻	the middle ten days of a month 中旬 六月三十号 June 30 此刻	the last ten days of a month 下旬 afternoon 下半年 second half of the year 下-刻
last moment 上(下)月 last month 上(下)星期 last week 上(下)季度 last quarter 上(下)世紀 last century	this moment 这(下)月 this month 这(下)星期 this week 这个季度 this quarter 这个世纪 this century	next moment 下(下)月 next month 下(下)星期 next week 下个季度 next quarter 下个世纪 next century

42

「上」が「参照的過去」、「下」が「参照的未来」の意味が定着

Non-deictic

deictic

42

本日の流れ

1. 理論的背景
2. 先行研究
3. H系とV系の時間用法
 - 3.1. 方位詞と同形の場合
 - 3.2. 時間詞の構成要素になる場合
4. 傍証
 - 4.1. V系の空間指示用法
 - 4.1.1. 方位詞用法
 - 4.1.2. 動詞用法
 - 4.2. 中国語母語話者はどのように時間を認識してきたか
 - 4.3. 中国語史からみたV系の歴史
5. まとめ

引用文献

44

44

本日の流れ

1. 理論的背景
 2. 先行研究
 3. H系とV系の時間用法
 - 3.1. 方位詞と同形の場合
 - 3.2. 前置詞の構成要素になる場合
 4. 傍証
 - 4.1. V系の空間指示用法
 - 4.1.1. 方位詞用法
 - 4.1.2. 動詞用法
 - 4.2. 中国語母語話者はどのように時間を認識してきたか
 - 4.3. 中国語史からみたV系の歴史
 5. まとめ
- 引用文献

45

45

まとめ

- i. H系が**主体参照(Ego-perspective)**に基づき空間移動のメタファーであるのに対し、V系は**環境参照(Field based)**に基づくSolar metaphor か metonymy、あるいは「河流のメタファー」である。
 - √概念メタファー理論における時空間メタファー3タイプ(MT/ME/環境参照型)を、観察者の位置、及び参照点との関係から、2種4タイプに整理した。
 - √中国語の時間詞に関する先行研究で提案されている有力な起点領域のうち、理論的妥当性が高いのは、Solar metaphor であるが、これが本当にメタファーであるかについては検討の余地がある。
 - √Solar metaphorは、結局、概念メタファー理論で提案されているどのタイプにも適合しない新しいタイプである。

47

47

まとめ

- 本発表では、V系の方位詞や移動動詞用法と歴史的観点からの検討に基づき、以下を検討した。
- i. H系が**主体参照(Ego-perspective)**に基づき空間移動のメタファーであるのに対し、V系は**環境参照(Field based)**に基づくSolar metaphor か metonymy、あるいは「河流のメタファー」である。
 - ii. 起点領域と目標領域が想定できるメタファーの写像関係は、solar metaphorにしか成立しない。
 - iii. H系が時間を認知者自身の移動事象体験として把握しているのに対し、V系は認知者が環境に生じる変化を外から観察することによって時間を認識しているので、事態把握に大きな認知的対立が見られる。

46

46

まとめ

- ii. 起点領域と目標領域が想定できるメタファーの写像関係は、solar metaphorにしか成立しない。
 - √Solar metaphorは、“上/下”の空間移動用法における方位詞および動詞用法の特徴との間に、①空間指示枠のタイプ、②移動事象の周回性、③語構造と意味関係、について整理とした写像関係が観察される。
 - √他の有力なメタファー(河流、社会階層、人体、書字)では、逆にこれらの写像関係が説明できなくなる。

48

48

まとめ

iii. H系が時間を認知者自身の移動事象体験として把握しているのに対し、V系は認知者が環境に生じる変化を外から観察することによって時間を認識しているので、事態把握に大きな認知的対立が見られる。

✓ 日時計(天体の周回移動)であれ、河流(または、漏刻)であれ、V系における時間の観察者は移動事象の主体ではなく、その視点は空間・時間移動経路の外にある(傍観者型)。

✓ この点で、他の多くの言語と同様にヒト(主体)の移動を起点領域とするH系とは事態把握に大きな対立がある。

✓ 時間や順序(“上次(前回)”“下次(次回)”)の表示にH系よりもV系を好む点は、主体参照的な指示よりも環境参照的な指示を優先する点で、中国語の重要な類型特徴の一つ

49

Special thanks to

张玲 孙芝珊 周雪

大町綺霞 蔡宜霖 韩天姿 许志鹏

安迪 张熙宁 王铮 张阔 杨爽

◆ 本研究はJSPS科研費 JP19K00581の助成を受けましたものです。

引用文献（下地）

【日文】

- 本多 啓 (2011). 「時空間メタファーと視点—生態心理学の自己知覚論をふまえて—」.『人工知能学会第2種研究会ことば工学会資料 SIF-LSE-B003: ことば工学会 (第37回):77-86.
- 本多 啓 (2012). 「時空間メタファーの経験的基盤をめぐって」『神戸外大論叢』62(2):33-56.
- 岩佐 一枝 (1999). 「ランニーチン阿細彝語の語構成分析」『アジア言語論叢』3, 神戸市外国語大学:13-38.
- 木村 英樹 (2021). 「中国語時間詞の空間性—〈過去〉と〈未来〉の空間メタファー—」『時間と空間』: 59-74, 三省堂.
- 木村 英樹 (2022,2). 「中国語における直示時点の空間把握」, 第54回中日理論言語学研究会, オンライン, 日本.
- 木下 正史 (2020). 『古代の漏刻と時刻制度—東アジアと日本—』吉川弘文館.
- 鍋島 弘治朗 (2008). 「現実と理想のメタファー—主観性および身体性との関連から」, 篠原 和子・片岡 邦好 編 (2008). 『ことば・空間・身体』:213-252, ひつじ書房.
- 下地 早智子(2015,6). 「中国語の空間語彙“前/后(後)”と“上/下”の時間用法における対立」, 対照研究セミナー, 神戸市外国語大学, 神戸, 日本.
- 篠原 和子 (2006). 「空間認知実験と時間メタファー」『認知言語学論考』No.6, ひつじ書房:1-47.
- 瀬戸 賢一 (1995). 『空間のレトリック』海鳴社.
- 高嶋 秀行 編 (2016). 『Newton 別冊 時間とは何か: 相対性理論の伸び縮みする時間, タイムトラベル, 時間の始まりと終わり, そして感覚的な時間まで』増補第3版, Newton Press.
- 鄭 新爽 [Zheng, X-S.](2018). 「中国語の時間表現に見られる順序認識—“上下”の時間表現を中心に—」『認知言語学研究』第4巻:109-131.
- 左 咏梅[Zuo, Y-M.](2007). 「「上」と「下」のメタファーについて—日中対照研究—」『杏林大学大学院国際協力研究科 大学院論集』No.4:47-63.

【中文】

- 董 为光.(2004). 〈汉语时间顺序的认知基础〉,《当代语言学》第6卷2004年第2期: 110-115, 北京.
- 蓝 纯.(2007). 《认知语言学与隐喻研究》, 外语教学与出版社.
- 下地 早智子 [Shimoji, S] (2011). 〈时空隐喻研究的近况及其日汉对比—以 FRONT/BACK 概念词汇的用法为中心—〉崔 希亮 主编《认知语法与对外汉语教学论集》: 194-216,北京语言大学出版社.
- 杉村 博文 [Sugimura, H] (1983). 〈试论趋向补语“下”、“下来”、“下去”的引申用法〉《语言教学与研究》第4期:102-116.
- 徐 凝婷, 吴 念阳. (2008) 〈析现代汉语中“时间是空间隐喻”及其心理现实性〉. 上海师范大学学报(基础教育版), 2008,37(01):8-11.

【英文】

- Alverson, Hoyt. (1994). *Semantics and Experience: Universal Metaphors of Time in English, Mandarin, Hindi, and Sesotho*. Baltimore: The Johns Hopkins University Press.
- Boroditsky, Lera. (2000). Metaphoric structuring: understanding time through spatial metaphors. *Cognition* 75: 1-28.
- Clark, H. H. (1973). Space, time, semantics, and the child. In T. E. Moore, *Cognitive development and the acquisition of language*:27-63, Academic Press.
- Fillmore, C. (1971). *Lectures on Deixis*. Stanford, CA: CSLI Publications.
- Dancygier, B., & Sweetser, E. (2014). *Figurative language*. Cambridge University Press.
(野村 益寛 他 訳(2021). 『「比喩」とは何か:認知言語学からのアプローチ』 開拓社.)
- Dixon, R.M.W. (1972). *The Dyirbal Language of North Queensland*. Cambridge University Press.
- Fuhrman, O., McCormick, K., Chen, E., Jiang, H., Shu, D., Mao, S. and Boroditsky, L. (2011). How Linguistic and Cultural Forces Shape Conceptions of Time: English and Mandarin Time in 3D. *Cognitive Science*, 35: 1305-1328.
- Gibbs, R. W., Jr. (1994). *The Poetics of Mind: Figurative Thought, Language, and Understanding*, Cambridge: Cambridge University Press. (辻 幸夫・井上 逸平 監訳 (2008). 『比喩と認知：心とことばの認知科学』 研究社.)
- Lakoff, George. (1987). *Woman, Fire, and Dangerous Things: what categories reveal about the mind*. University of Chicago Press. (池上 嘉彦 他 訳 (1993). 『認知意味論—言語から見た人間の心』 紀伊國屋書店.)
- Lakoff, George. (1993). The contemporary theory of metaphor. In Ortony (ed.), 202-251.
- Lakoff, George. and Mark, Johnson. (1980). *Metaphors We Live By*. Chicago: University of Chicago Press. (渡辺 昇一 他 訳 (1986). 『レトリックと人生』 大修館書店.)
- Lakoff, George. and Mark, Johnson. (1999). *Philosophy in the Flesh*. New York: Basic books.
- Levinson, S.C. (1996). Frames of Reference and Molyneux's Question: Cross-linguistic Evidence. In P. Bloom et al. (eds.), *Language and Space*, 109-169. Cambridge, MA: MIT Press.
- Levinson, S.C. (2003). *Space in Language and Cognition*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Moore, E Kevin. (2009). Ego-perspective and field-based frames of reference: temporal meanings of FRONT in Japanese, Wolof, and Aymara. *Journal of Pragmatics*. Vol.43-3:759-776.
- Needham, J. and Wang, L. (1959). *Science and Civilisation in China* Vol.3, Part 2, *The Science of Heavens*, Cambridge University Press. (東畑 精一・薮内 清 監修(1991) 『中国の科学と文明 第5巻 天の科学』 思索社.)
- Núñez, Rafead E. and Sweetser, Eve (2006). With the Future Behind Them: Convergent Evidence from Aymara Language and Gesture in the Crosslinguistic Comparison of Spatial Construals of Time. *Cognitive Science* 30(3): 1-4.

- Ortony, Andrew (ed.). (1993). *Metaphor and thought*. (2nd edition). Cambridge University Press.
- Radden, Günter. (2011). Spatial time in the West and the East. in Brdar, Marija & Omazic, Visnja & Takac, Tanja & Gradecak-Erdeljic, Gabrijela & Buljan (eds.), *Space and Time in Language*:1-40. Frankfurt: Peter Lang.
- Shimoji, Sachiko[下地 早智子]. (2016,6). Conceptual Opposition between FRONT/BACK and UP/DOWN in Chinese SPACE-TIME Metaphors, Poster session presented at the 24th Annual Conference of the International Association of Chinese Linguistics, Beijing Language and Culture University, Beijing, China.
- Tai, James. (1989). Toward a Cognitive-based Functional Grammar of Chinese, In Tai, James and Hsueh, Frank (eds.), *Functionalism and Chinese Grammar* : 187-226. Seton Hall University: NJ.
- Temple, R. (1986). *The Genius of China: 3,000 Years of Science, Discovery, and Invention, Inner Traditions*. (牛山 輝代 訳(1992) 『図説 中国の科学と文明(改訂新版)』河出書房.)
- Xu, Dan. (2008). Asymmetry in the expression of space in Chinese: The Chinese language meets typology. In Xu, Dan ed. (2008). *Space in Languages of China: Cross-linguistic, Synchronic and Diachronic Perspectives*: 175-198. Springer.
- Yu, Ning. (1998). *The Contemporary Theory of Metaphor: A perspective from Chinese*. John Benjamins.
- Yu, Ning. (2012). The metaphorical orientation of time in Chinese. *Journal of Pragmatics* 44 :1335-1354.

直進する時間・循環する時間

“前/后”“上/下”の時間指示用法における認知的対立

下地早智子 (神戸市外国語大学) 松江 崇 (京都大学)

* 松江担当箇所 (4.2~4.3)

4.2 中国語母語話者はどのように時間を認識してきたか

4.2.1 漏刻 (水時計)

漢代以前 (おそらく周代) から使われていた。漢代の文物が現存する。時代とともに精緻なものへと発展。

○文献記載: 『隋書』「天文志」 「漏刻」

昔黄帝創觀漏水，制器取則，以分晝夜。其後因以命官，《周禮》挈壺氏則其職也。其法，總以百刻，分於晝夜。冬至晝漏四十刻，夜漏六十刻。夏至晝漏六十刻，夜漏四十刻。春秋二分，晝夜各五十刻。

〔昔、黄帝が、水が漏れ出る現象の観察をはじめ、器物をつくり法則を見出し、それによって晝夜を分けた。『周礼』の挈壺氏がまさにその職を担ったのである。その法則では、全部で百刻 (という時間単位) によって晝夜を分けると、冬至では晝漏 (晝の漏水) が四十刻、夜漏 (夜の漏水) が六十刻であり、夏至では晝漏が六十刻、夜漏が四十刻であった。春と秋は二分され、晝夜はそれぞれ五十刻であった。〕

4.3 中国語史からみたV系の歴史

4.3.1 先行研究：徐丹2016

- 上古（後漢以前）から「上」が時間的意味を表すことはあったが（「上世」「上古」「上代」）、「下」はやや遅れた（「下旬」が生じてから類推により「下旬」が生じた）。いずれにせよ紀元前三世紀には「上」「下」のいずれにも時間的意味は生じていたと考えられるが、語彙的に極めて限定されていた。
- しかし「上」「下」による「縦向時間系統」（縦軸系時間体系）が確立したのは、「上午」「下午」が出現した宋代以降である（「上午」「下午」の出現は、おそらく「中午」の出現によって誘発された）。宋代以降の文献には、「上」が過去・以前を、「下」が未来・以降を指す用例がみられる。
- 横軸系／縦軸系の使用状況は方言によって異なる。ラサ・チベット語にも縦軸系が使われており（ただし体系的ではない）、中国語の縦軸系の時間表現は、唯一の存在ではない。

* 問題点：「上／下午」とそれ以前の「上／下世」では何が異なるのか明確ではない。

4.3.2 本発表による補足・修正

○名詞用法と動詞用法の音韻差異（中古音）

「上」① 時亮切・漾韻開口三等去声禪母・上古陽部：名詞用法

② 時掌切・養韻開口三等上声禪母・上古陽部：動詞用法

「下」① 胡雅切・馬韻開口二等上声匣母・上古魚部：名詞用法

② 胡駕切・禡韻開口二等去声匣母・上古魚部：動詞用法

		上	下
名詞用法	空間的意味	上古初期	上古初期
	時間的意味	上古初期 * 中古以前は修飾する名詞は循環性のもの	上古後期？ * 中古以前は修飾する名詞は循環性のもの
動詞用法	空間的意味 * 上古は自動詞用法が主。 「上下」が対での用いられた例が多い	上古中期（ただし上古中期は少ない） Cf. 「昇」「登」	上古中期

○名詞用法（時間的意味）

- 語稱上世之人，質朴易化；下世之人，文薄難治。故《易》曰：「上古之時結繩以治，後世易之以書契。」先結繩，易化之故；後書契，難治之驗也。（『論衡』「齊世」）

* 時間的意味（「下世」は未来ではなく「上」と対で使用され「順序」を表す。cf.「後世」『史記』「秦本紀」。）

〔世間の言葉に次のようなものがある。「大昔の人は質朴で教化しやすかったが、後の世の人は派手で中身がなく統治し難い」と。だから『易経』に言う「上古の時代は、結繩で統治したが、後世はこれにかえて文字を用いた」（松江注：繫辭伝の語句）。結繩を先にしたのは、教化しやすかったからであり、文字を後にしたのは、統治し難かった証拠である。〕

○動詞用法

- 上古では自動詞用法が主。他動詞文型をとる場合、目的語は移動の主体である場合もある（能格型を構成）。さらに「上」については着点、「下」については起点・着点が目的語の位置を占めることがある。
- 方命虐民，飲食若流。流連荒亡，為諸侯憂。從流下而忘反謂之流，從流上而忘反謂之連。（『孟子』「梁惠王下」）

* 崔達送2005：（松江注「上」は）『左伝』『孟子』では河流に関する場所と関係が緊密であり、しばしば「下」と対に用いられる。

〔〔晏子の言葉〕（今の君主は）先王の命に背き、飲食を流れるように恣にとり、「流連荒亡」が諸侯の憂いになっている。（川の）流れに従って下っていき（遊びにふけて帰るのを）忘れてしまうのを流と言ひ、（川の）流れを沿って遡っていき（遊びにふけて帰るのを）忘れてしまうのを連と言う〕

- 從長者而**上丘陵**，則必鄉長者所視。（『禮記』「曲禮上」）

* 着点

〔年長者につき従って**小山に登る**ときは、年長者が見ている方向に向いていなければならない。〕

- 孟子曰：「…望見馮婦，趨而迎之。馮婦攘臂**下車**。眾皆悅之，其為士者笑之。」（『孟子』「盡心下」）

* 起点(see. 「下馬」「下堂」)

〔孟子は言った「…（人々は）馮婦を遠くにみると、駆け寄ってこれを迎えた。馮婦は（虎をとらえようと）腕をまくり上げて**車を降りた**。皆はこれを喜んだが、思慮ある士は彼をあざ笑ったということだ〕

○「上午」「下午」の成立に関する仮説（**二段階説**）

(1) 「上世」「上古」などは修飾構造。しかし「上午」については、複数の「午」の先後を表していないため、修飾構造ではなく、「動詞＋目的語」構造であった。（see. 「過午」『後漢書』，「當午」『宋史』）

(2) 中古音（隋代音）段階では、動詞用法と名詞用法に音韻的差異が存在していたが、唐五代以降に規則的音韻変化により、両用法の音韻的合流が生じた。

(3) 移動動詞と名詞の時間的意味を表す用法とが同音になり、「上午」「下午」が修飾構造へと再分析され（フレーズ全体で時間を表すため）、特定の時点を基準にして時間的な前後を「上」「下」に振り分ける用法が成立し、V系の時間表現が拡張・成熟していった（deicticな用法が確立）。

* 「午」は特定の天空の位置（方角）の名称でもあり、特定の時間帯の名称でもあった。

- 行者道「不消說了。你們這裡人家，**下年**再不用祭賽，那大王已此除根，永無傷害。…」(『西遊記』第四十九回「三藏有災沉水宅・觀音救難現魚籃」)

〔行者(=悟空)は(陳清たちに)言った「(そんなこと)言わなくていいぞ。あんたたちこの人は、**来年**からはもうあんな祭礼はしなくともよくなったんだ。あの大王の禍の根はもう断ち切られて、もう二度とあんな害はなくなったのだぞ。…」〕

参考文献 (松江担当分)

- 木下正史2020『古代の漏刻と時刻制度——東アジアと日本——』，吉川弘文館。
- 崔達送2005『中古漢語移位動詞研究』，安徽大學出版社。
- 李左豐「先秦漢語的自動詞及其使役用法」，『上古漢語語法研究』2004年，北京廣播學院出版社
- 王海棻『古漢語時間範疇』，安徽教育出版社，2004年
- 徐丹2016「古漢語裏的縱向時間表達」，『語言科學』，第15卷第1(总80期)，1-10頁。

依拠資料

- 禮記：十三經注疏整理委員會整理『禮記注疏』（十三經注疏整理本）。北京：北京大學出版社，2000年。
- 孟子：焦循撰·沈文倬點校『孟子正義』（新編諸子集成第一輯）。北京：中華書局，1987年。
- 漢書·隋書：『漢書』『隋書』（二十四史縮印本）。北京：中華書局，1997年論衡：黃暉撰『論衡校釋』（新編諸子集成第一輯）。北京：中華書局，1990年。
- 西遊記：『西遊記』（中國古典文學讀本叢書）。上，中，下（第2版）人民文學出版社，1980年。